

# おかしな病気の話

## 石座神社「甘酒当」

いわくら  
—今に残る当(頭)屋祭祀 その②—

石座神社(石原町)の神迎え行事は、神社の六座社にオシロジロ(しとき餅)と特殊神饌を献供する神事で、旧暦の十一月一日に行われます。六座社とは、本殿四座の「石座」「日吉」「稲荷」「天照皇太神」と、旧田原坂村にあった「猿田彦」、室合内(むろあご)で祀っている「山の神」の六社をいいます。献供する特殊神饌は、ダイコンで造った舟に白神酒(甘酒)を入れたものです。

神事に従事する人たちは、前日から境内の集会所でオコモリをしながら準備を行います。そして、神事当日の早朝には、境内横の室合内川で神事を中心とする人の禊が行われます。この神事では、神饌となる甘酒の責任を全て負う「甘酒当」と呼ばれる当(頭)屋の四人(一々四番)が、くじで選ばれます。中でも、甘酒当一番は、献饌を行う神事に直接かわる重要な役割を担います。

神迎え当日の朝六時。新社守が酒器を、甘酒当一番がダイコン舟の三方を持って、急勾配の石段を登り本殿に進んでいきます。四座を前に「石座神」「稲荷神」「日吉社」「天照皇太神」の順にダイコ

ン舟に甘酒を注ぎ、オシロジロ一切れを二つ折にした白紙の上に置いていきます。この時、中央に祀られている石座神の方に向くように、それぞれ左右の向きを変えて置いていきます。次に本殿と拝殿の間にある「猿田彦神」を祀る石の祠前にて献饌を行います。そして、再び



できあがったダイコン舟

拝殿に戻り石座祝詞、玉串奉奠を行い神事が終了します。甘酒は、当日、参詣者にも振舞われます。式後、神社から南へ少し下った山の入口に祀られている残りの一座社「山の神」へ甘酒当一番と新社守が献饌を行います。ここでもやはり、ダイコン舟の舳先は石座神社の方へ向け置いて置く慣わしがあります。

石座神社の神迎え神事は、伝統を守り、将来に伝えていこうとする世代間の調和がとてよく取れていると感じられます。地域の人々の熱い思いが伝わってくる行事の一つです。

図書館交流プラザ岡崎むかし館主任専門員

野本 欽也

# 「よくわかま」病気の話

## 甲状腺ってなにをしているの？

—小さいけど重要な臓器—

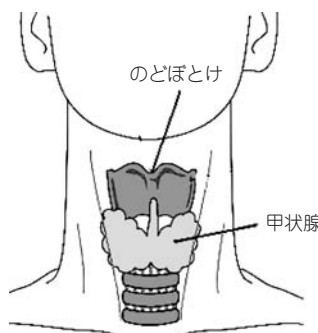
皆さんは甲状腺がどこにあるかご存知ですか？甲状腺は、喉仏の数センチ下にあります。縦4センチ、重さ約15gほどで、蝶が羽を広げたような形です。自分では見つけにくい小さな臓器です。

では、そんな小さな臓器が何の役割を果たしているのでしょうか？実はホルモンを作っているのです。甲状腺が作るホルモンを甲状腺ホルモンといい、体の元気を維持してくれる大切なホルモンです。このホルモンは、多ければ良いというものではなく、また、少なすぎても元気がなくなってしまうます。丁度良い量が大切です。

ホルモンが多すぎる病気の代表は「バセドウ病」です。ドキドキする、首が腫れる、目がギョロロとしてきた、手が震える、暑がりになる、食べても太らない、息切れがする、落ち着きがなくなる、いらいらする、などといった様々な症状が現れます。原因は甲状腺を刺激する物質が体内にできるためだとされています。治療法は内服、手術、放射線治療で、約半数

のかたが内服治療で安定します。ホルモン値が正常に戻れば自覚症状は消え、普段通りの生活ができるようになります。

前記のような症状に心当たりのあるかたは、一度かかりつけ医で甲状腺の検査をもらうとよいでしょう。普段、観察することの少ない自分の首。一度、鏡の前で自分の首を眺めてみてはいかがでしょうか。



岡崎市民病院 内分泌・糖尿病内科

医師 石川 孝太

統括部長 奥村 中

市民病院を受診する際は「かかりつけ医」の紹介状をお持ちください。